

中央学院高部 初の全国大会出場へ



来年3月
愛知県で

主将「目標は優勝です」

我孫子市の中央学院高校剣道部が今秋の県新人戦の男子団体に準優勝の好成績を収め、初の全国大会出場権を獲得した。来年三月に愛知県春日井市で開かれる第二十六回全国高校剣道選抜大会に向け、部員たちは鍛錬に励んでいる。
(堀場達)

中央学院は、十一月二十五日に船橋市であった新人戦の決勝で強豪の東海大浦安と対戦。大将戦まで持ち込む接戦の末、2-3で惜敗した。今年のインターハイでベスト16入りした都道府県からは、二校が選抜大会に出場できることから、中央学院も代表の座を射止めることができた。

剣道部は、いずれも顧問教諭の林佐登美さん(五五)、井谷栄人さん(四三)が指導。一、二年生の部員は十一人で、一日平均二時間ほど総稽古で汗を流し、技を磨いている。過去に個人戦で全国上位に名を連ねた部員はいたが、団体戦はあと一步、全国大会に届かなかったという。

▲選抜大会へ向け、意欲がみなぎる1、2年生を中心とした部員ら。我孫子市で

東京新聞 2016/12/20 掲載

「出場できるのは、インターハイで木更津総合がベスト8と活躍してくれたおかげでもある」と林さん。初のひき舞台では「ふだ

んの稽古の力を発揮するのみです」。

主将の伊藤源太さん(二年)は「初めての千葉県代表。全国に行けば周りから

も注目される。一戦一戦が「たとした美しい剣道」が特徴的」と評して「誇りに思っている。悔いのないように全力を尽くしてほしい」と期待を寄せた。